

## 第1回 新たな文化施設の整備に関する有識者会議

**日時：**令和6年8月29日（木） 15：00～16：45

**場所：**市役所本庁舎7階第2委員会室

**参加者：**

**有識者：**五島朋子会長、倉持裕彌副会長、河合真由子委員、赤山渉委員、木谷清人委員、田邊徹委員、齋藤頼陽委員、湯浅いづみ委員（オンライン）、大倉さゆり委員、川崎富美委員

**鳥取市：**

企画推進部 塩谷範夫部長、河井経営統括監

文化交流課：中村和範課長、城市索課長補佐

政策企画課：上田貴洋課長

教育委員会生涯学習・スポーツ課：須崎ひとみ課長、平田政志課長補佐

総務部資産活用推進課：福井一朗課長

まちなか未来創造課：筒井真二課長

PwC：片山、吉田、鈴木、藤井（オンライン）

### 【議事要旨】

1. 開会
2. 委員紹介
3. 会長・副会長の選出、会長挨拶

【委員】事務局一任でいかがか。

【事務局】会長には五島委員、副会長には倉持委員を推薦したいが、いかがか。

【一同】異議なし。

【会長】それではこれより進行を進めさせていただきます。近年は気候変動による災害の激甚化や

各地での戦争、コロナなど世の中が不安定で先が見通せない時代である。その中で、異文化理解や心の癒しとなる芸術・文化の役割はますます大きくなっていると考えている。本会議での議論は、長期的な視点を持ち、この場にはいない人、今まで文化施設に来ていない人、来たいけど来られなかった人のことも考え、長期的な観点で議論していただきたい。また、未来の鳥取市民に素敵な贈り物を届けるという意識をもって議論していきたいと考えている。

#### 4. 議題

##### (1) 有識者会議の目的・役割

※資料1-1から1-4について、事務局より説明

【会長】事務局から説明いただいたが、ご質問等あるか。

【一同】特になし。

##### (2) 委員による意見交換

※参考資料①、資料2-1について、事務局より説明

【会長】本日の有識者会議では、初期的な意見交換の場として、資料2-1の2頁に記載された論点も念頭に、鳥取市の文化施設として何が求められるかという観点で自由に意見交換を行いたい。

【委員】有識者会議は全4回の開催が予定されており、どこを到達点にするのかにもよるが、議論の場が少ないようにも感じている。ホール等文化施設のあり方に関する基本方針で示された①文化芸術の振興、②安全性・利便性の向上、④集客力の向上については当然考えていかなければならないと思っているが、③公共施設の総量縮減や⑤中心拠点及び市全体の活性化については、当会議でどこまで議論するのか。新たな文化施設の規模や内容が主な議論になりように見受ける。また、③公共施設の総量縮減については、前回のホール等文化施設のあり方に関する検討委員会でも議題に挙がったが、具体的にどの施設をいつ閉館させるのかという議論には至らなかった。統廃合される施設を新たに活用していく方針が示されているが、その検討も当有識者会議で議論を行うのか。統廃

合された施設を活用するだけでは公共施設の縮減にはならないので、その点も踏まえなければならぬ。さらに、今回の会議で新たな文化施設の場所は議論されるか。鳥取駅周辺再生基本計画でも、文化施設が配置される方針が出ている。今回の議論とはどのように関連づけられるのかを確認したい。

【事務局】今回の基本構想を策定する段階では、既存施設の具体的な閉館スケジュールや跡地の扱いについて検討することは難しいと考えている。例えば市民会館では空調の老朽化が課題になっているが、具体的な修繕の可否・時期・内容は別途検討しているところである。また福祉文化会館は耐震性がないという課題もあり、いずれ利用を止める施設になるが、具体的な時期までは想定できていない。本有識者会議では4施設の方向性は議論していきたいものの、既存施設の具体的な扱いは別途議論することとしたい。また、鳥取駅周辺再生基本計画では、ホール機能、展示機能を含めることの可能性が示されているが、ホール機能は土日の稼働が主となり、駅前に配置しても賑わいを生まないのではないかという見解もでている。そうした状況も踏まえて、文化施設のあり方について議論いただきたい。

【会長】既存施設の扱いや、新たな文化施設の場所について市側の方針は決まっていないということであった。この場ではまず文化施設の将来の理想的な姿を議論するしかないと考えている。また、ホールを整備しただけでは賑わいは繋がらないため、にぎわいを生むためには今後どのような文化活動を行っていくかという観点でもご意見いただきたい。

【委員】情報やデータを集めて分析し、条件を積み上げていくことで文化施設の姿は見えてくるものと思われるが、一方で、基本方針からは文化施設の核となる部分が見えてこないと感じている。文化は人間をつくっていくことであり、長い時間がかかるものである。人の幸福にかかわること、癒しを得る、生きていく活力になるような体験が自主的にできるようになると良い。他事例では山口の YCAM（山口情報芸術センター）の活動が面白いと思っている。自身は鳥取市で生まれ育ち、結果的にデザイナーになったが、高校卒業までデザイナーという存在を知らなかった。鳥取市には、自らプレイヤーになる選択ができるような町になってほしいと思っている。

【会長】情報やデータから条件を積み上げていくと文化施設が見えてくるという話があったが、ご

指摘のとおり、基本構想の策定では、どのような目的・どのような核をもった文化施設にしていくかというところを今回の議論で明確にしていく必要がある。

【委員】資料 2 - 1 の 4 頁の「新たな文化施設の機能イメージ」に今回検討する 4 施設の機能が含まれていると思うが、貸会議室の機能がないように見える。その点はどのようにお考えか。

【事務局】「交流スペース」は会議、学習、休憩などに対応可能なスペースを想定しており、貸会議室の機能は交流スペースに含まれる想定である。

【委員】施設の使われ方を考慮すると、展示会を準備するにしても事前に複数回は話し合いや準備が必要になるため、展示スペースとセットで会議室が必要になるものと考えている。現状の利用者からは、音楽系の練習スペースが不足しているという声があがっているが、防音環境の充実がどれだけ実現できるかも気になっている。利用者の高齢化もあり、段差がない、階段の上り降りがない等のバリアフリーへの対応が必要である。市民会館で行われるコンサートの際は、トイレに行列ができてしまい休憩時間に間に合わない等の問題も起きており、ホールの客席数に応じたトイレが必要である。展示スペースについては、福祉文化会館は会議室を展示に使うこともある。利用者が使うエレベーターで展示物を搬入しており、使い勝手が悪い。また、運搬に使うトラックを搬入口のそばに駐車できないという声も多い。

【会長】練習室が足りないという話があったが、事務局から既存施設の利用状況データや他施設の状況を提示していただきたい。バリアフリーや搬入動線は今後整備する施設には、検討するまでもなく必須と考えている。また、障害者による文化芸術活動の推進に関する法律や障害者差別解消法への対応も当然必要である。

【委員】文化施設の規模感をイメージする必要があり、市民からは音楽活動には 300 人規模のホールが必要という意見がある。また、現在の市民会館のような 1000 人規模のホールは残すべきなのかという議論が生じるのではないか。展示については、市民美術展が開催できる空間の要望があるが、市民美術展が開催できる規模とは県立博物館の第 1 展示室と第 2 展示室（各 515 m<sup>2</sup>）を合わせた 1,000 m<sup>2</sup>程度の空間が必要となる。その展示機能に付随する収蔵機能も含める場合、相応の規模の施設が必要となり運用は

難しくなる。規模の検討を行うに際しては、ある程度前提がないと議論が進めにくい。また、新たな文化施設が駅周辺の施設に含まれるのであれば、自ずと規模の上限が決まってくるのではないかと。

【会長】市民から様々な要望が出ていると認識しているが、今後 50 年先の施設を考えるにあたって優先すべき事項はどのようなものとお考えか。

【委員】300 人規模のホールは必要と考える。1,000 人規模のホールが必要かどうかは施設の規模によるものと思うので、必要性については要検討課題と考えている。展示スペースについては、市民美術展の開催には 1,000 m<sup>2</sup>程度が必要になると考えるが、市民美術展の開催時期以外にはどのように運用するかが課題となってくる。美術館機能が県立博物館から県立美術館に移行するため、今後は一定の時期に県立博物館で市民美術展のスペースを確保できる可能性もある。一方で、鳥取県東部地区には美術館機能がなくなることになる。市民からの意見をみると、収蔵庫や学芸員の確保が要望されており、つまり相応規模の美術館が必要という意見と認識している。現在、鳥取市文化財団には学芸員が 1 名しかおらず、鳥取県東部に学芸員がいる美術館機能が必要というのは明らかと考える。展示スペースとしては、巡回展を開催するには 1,000 m<sup>2</sup>程度の空間が必要だが、もう少しコンパクトにすることもあると思う。現在のやまびこ館は 280 m<sup>2</sup>と狭く使いにくいので、500 m<sup>2</sup>程度は必要。

【委員】300 人規模のホールの必要性については、ホール等文化施設のあり方に関する検討委員会でも議論になった。規模の他、県内外からの集客も考えると音響の観点からも演奏者の意見を聞きたい。

【委員】1,000 人規模のイベントは梨花ホールで対応できるが、300 人規模のホールがちょうど発表会や合唱団の利用に適する。音響の観点では、良い物から得るものは多いと考えている。実際にアップライトピアノからグランドピアノに変えた子どもたちがコンクールで優勝するようになったという話を聞いたことがあり、音響が整った空間で子どもたちに学んでほしいという思いは強い。別の観点になるが、他都市のスポーツセンターでは参加料 700 円で頻りにスポーツ教室を行っている。市民の方が施設に通うきっかけにもなると思うので、音楽や美術・演劇の分野でも、毎日のように何か活動ができる場所の提供ができないかと思う。

【会長】そのような活動は誰が担う想定か。

【委員】個人が担うのは難しいと思うため、市や団体で実施できないかと考えている。

【会長】近隣都市で活動しているプロフェッショナルとネットワークを組み、そのネットワークを活かしながら、文化活動を提供することもできるのではないか。

【委員】先程の委員の意見に賛成で、日常的な利用ができる施設だと良い。小中学生が芸術に触れる機会としては、年に数回、学校の体育館や多目的スペースに劇団を招く出前事業を行っているが、例えば体育館の場合、照明設備が不十分であり温度調整も難しいため、実際に劇団に来てもらう調整が困難である。そのようなときに日常的に鑑賞ができるホールがあると良いと思った。本会議では将来の施設のあり方の検討になることから、コロナを経て学校の在り方が変わり、タブレットやオンラインの活用も増えた。そうなったときに、50年後は必ずしも学校に通うということもなくなるかもしれない。仮に学校に通うことがなくなる、減るようなことがあれば、個人が選択して学ぶことが重要になってくる。キャリア教育という観点でも、普段学校へ来てくれているような団体が日常的にワークショップを開催し、子どもが文化芸術に触れる機会を提供できる施設になると良いのではないか。また近年、稲葉山小学校では鳥の劇場に観劇しに行っているが、普段見ることのない劇場に実際足を運ぶということも子供たちにとって刺激的な体験になっている。

【会長】50年後の小学校のあり方も鑑みると、「行けば常になにかある」という施設が重要になるという視点であった。活動しているアーティストが文化施設に出入りする仕組みがあると良い。

【委員】文化芸術は手段でなくてはならず、目的は豊かな社会をつくることである。様々な人が集う、考える場所をつくるには、指針をもって進めていく人が必要になる。施設の中でどのように運営していくのか、市としてどのような社会にしていきたいのかという議論が抜け落ちているように思う。子どもたちに劇場が必要かと問うと、必要と答える人は少ない。劇場が「必要だ」と思える場所になるにはどうするべきかと常に模索しているが、そのような議論ができると良い。

【会長】重要な問題提起と受け止めた。今まで文化施設に来ていない人や社会的に周縁に置かれる人も巻き込みながら、事業を組み立てコーディネートし、仕組みづくりをしていく存

在が必要である。鳥の劇場では障害のある方や小学生と作品をつくりあげたり、大学との連携をしたりしているが、地域内で様々な出会いを創出しているという点において、劇場の必要性を表している。文化施設で行われるアート活動を地域の中でコーディネートしていく取組がなければ地域は豊かになっていかないと思う。

【委員】私自身はイラストレーターとして作品を展示するほか、子供たちにもものづくりの楽しさを教えるワークショップや、高校の美術の非常勤講師をしている。今の時代は、何かの真似はできるがオリジナルをつくることは難しいという生徒が多い。小さい頃のものづくりの体験が少ないことが要因になっているのではないかと思うので、ものづくりワークショップ等、一から創造する体験の場所があると良い。また、一日中家にいるお年寄りも楽しめるような「ここにきたら何か体験ができる」という場所が身近にあると良いと感じた。

【会長】本会議では中心拠点の文化施設の検討であるが、基本方針では地域生活拠点との機能分担という話もあった。中心拠点での活動が生活拠点にも派生する仕組みがあると良い。

【委員】先程の委員と同意見である。市民の要望がたくさんある中で、市では優先順位の判断をしていくこととなる。文化施設をどう運用していくのか、文化芸術を通して市民生活をどう豊かにしていくかが重要な観点となる。市の方針として、人口規模相応の施設をつくっていくということになってしまうのであれば、議論の幅は限られてくる。市の方針が前段に示されると良い。

【会長】市から今後の展望が示されるのが望ましい。

【事務局】委員のご意見をお伺いして、基本構想策定にあたっては、今回の議論を踏まえたコンセプトづくりが重要と感じた。なお、資料2-2に既存施設の利用状況として利用者数もまとめているため、どの程度の規模のホールが必要かという判断の参考にさせていただきたい。また、資料2-3には4施設の利用状況をまとめている。文化ホールの練習室の稼働は高く、練習目的のニーズが高いことも数字が示している。現在データの分析を進めており、次回の有識者会議でお示ししたい。

【委員】新たな文化施設は、県内の伝統工芸や伝統芸能など、地域で繋げていく芸術の拠点でもあってほしいと思った。

【会長】毎年わらべ館では人形芝居三座合同公演が行われている。発表の機会があると存続できるということでもあるので、鳥取市の文化を育てていくという観点でも重要であると受け止めた。

【委員】先程の委員の意見はもっともだが、それらを基本構想にどのように落とし込むかが難しいと思っている。

【会長】今回は基本構想のため、可能性のある選択肢を示すことになるのではないかと。

【委員】資料 2 - 3 には 4 施設の利用状況がまとまっているが、ホール系については県立博物館の講堂、わらべ館ホール、とりぎん小ホール、展示系としては県立博物館、やまびこ館や民間ギャラリーの情報も整理されると良い。次回開催を待たずに共有してほしい。

【会長】練習室の利用は何の練習に使われているかという情報もあると良い。また、300 席規模のホールが求められているという話があったが、全国各地で多機能かつ高機能な空間が整備されていると認識している。そのような事例を見せてほしい。

【委員】また、施設があと 2 - 3 年もたない、など施設の状況に関する情報があれば補足されると良い。

### (3) 今後の予定（会議日程等）

※資料 3 について、事務局から説明

【事務局】第 2 回有識者会議は、10/25（金） 10:00 から開催する。

## 5. 閉会

以上